

第1回小牧市健康・支え合い循環推進会議 議事要旨

日 時	令和4年11月28日(月)10時30分から12時00分まで
場 所	小牧市役所 東庁舎5階 大会議室
出席者	<p>【委員】</p> <p>柴田 謙治 金城学院大学 教授</p> <p>伊藤 博美 椙山女学園大学 教授</p> <p>加藤 武志 中京大学 講師/まち楽房有限会社 代表取締役</p> <p>田中 秀治 小牧市社会福祉協議会 在宅福祉課長</p> <p>関 哲雄 こまき市民活動ネットワーク 事務局長</p> <p>【市政戦略本部 本部長】</p> <p>山下 史守朗 小牧市長</p> <p>【事務局】</p> <p>入江 慎介 健康生きがい支え合い推進部長</p> <p>江口 幸全 健康生きがい支え合い推進部次長</p> <p>永井 政栄 健康生きがい推進課長</p> <p>倉知 昌孝 支え合い協働推進課長</p> <p>岩下 貴洋 健康生きがい推進課係長</p> <p>岡田 洋平 支え合い協働推進課係長</p> <p>丹羽 勇人 支え合い協働推進課主事</p>
欠席者	伊藤 大介 日本福祉大学 助教
傍聴者	2名
配布資料	<p>資料1 小牧市健康・支え合い循環推進会議設置要綱等</p> <p>資料2 第1回会議資料</p> <p>参考資料1 小牧市まちづくり推進計画 第1次基本計画 概要版</p> <p>参考資料2 健康に関する主な施策一覧</p> <p>参考資料3 健康いきいきポイント制度について</p> <p>参考資料4 支え合いに関する主な施策一覧</p> <p>参考資料5 支え合いいきいきポイント制度について</p>

主な内容

<p>1. 開会</p> <p>市長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小牧市は健康づくりと支え合いの地域づくりを両輪とし、市民の協力のもと相互に循環させていく取組みを進めている。少子高齢化が進んでおり、先日、首相官邸で開催された全国青年市長会でも、人口減少対策を国家の最優先課題としていただくよう強く訴えてきた。 ・介護保険等の公的サービスによる支援は限りがある中で、それだけでは手が届かない部分が出てくる。小牧市では人口が減少しているが世帯数は増えており、単身世帯も多くなってい
--

る。公的サービスによる、支援のはざまの部分に補う支え合い活動を活性化させていくことも重要だと考える。

- ・市長就任時に高齢者福祉医療戦略会議を立ち上げた。その中で有識者と重点課題のテーマを20ほどに絞った。特に、在宅医療と地域の支え合い活動の充実を最優先であると整理した。在宅医療については在宅医療・介護連携サポートセンターを作り、多職種でケーススタディなどを通して熱心に取り組んでいただいている。
- ・支え合い活動については、健康で長生きすることが誰にとっても幸せにつながる。活動参加が健康にもつながり、お互い様の思いで地域を作っていきたい。活力ある高齢社会、幸せな高齢社会を作っていくことを模索している。
- ・健康づくりでは、健診や「こまき健康いきいきポイント」、ウォーキングアプリ alko、新型コロナウイルス感染症予防ワクチンなどを充実させてきた。
- ・支え合い活動では地域協議会、「こまき支え合いいきいきポイント制度」、高齢者サロン、巡回バスの充実、市民活動の拠点整備、生涯学習から担い手の育成なども取り組んできた。コロナで停滞したが、リスタートしていきたいと思っている。
- ・特にポイント制度は2つあり、活動のきっかけや励みにしてほしいと思って始めた。ためたポイントは小牧市限定商品券になり、商業の下支えにもつながる。個人の健康と支え合い活動で、まちの元気を循環させていくことを描いて取り組んできた。グローバル化が進む中、地域限定にこだわることや電子化の難しさの悩みもある。そうした循環の仕掛け・仕組みについて、この会議で様々な忌憚のないご意見、アイデアをいただき、施策に反映させていきたい。戦略会議の一つとして位置付けており、私もできる限り参加したい。限られた時間ではあるが、有意義な会議となるようご協力、ご指導をお願いし、挨拶としたい。

2. 委員紹介

- ・委員、事務局等の紹介

3. 健康・支え合い循環推進会議について

- ・事務局による資料説明（資料1）
- ・会長・副会長の選出

○柴田会長

- ・皆さんの推薦により会長を務めさせていただく。よろしくお願ひしたい。
- ・事務局説明にもあったように、広く議論を尽くし、意見を整理して市の対応を検討していく会になるので忌憚のない意見をお願ひしたい。

4. 議題

(1) 健康づくりと支え合い活動の展開について

- ・事務局による資料説明（資料2）

○柴田会長

- ・具体的な制度設計と実績を聞いた。勉強にもなったが疑問なども出てきた。皆さんから意見などを自由に出して欲しい。いかがだろうか。

○伊藤博美委員

- ・ボランティアに参加する方の男女比は、どのようになっているか。

○事務局

- ・お互いさまサポーターは、女性が約 1,000 人、男性は 400 人弱。一方、地域協議会では男性の運営者も一定いる。

○田中委員

- ・ボランティアは無報酬性の概念があり、まったく見返りを求めない考えの人も多かった。ポイント導入時にグループに対しての説明会を行い、ポイントの申請は各自が判断するものとした。
- ・サロンの運営者は、ポイントを通して自分の活動が認められている、承認されていると好感を持つ人が結構いて、現在、かなり定着してきていると思う。得たポイントをグループ活動に還元している人もみられる。
- ・新しい活動へのきっかけという意味でも、効果が出ていると思う。

○関委員

- ・サロンの運営やポイント対象の申込時に現場に行くと、女性が多く、中心となっていることが確認できる。

○柴田会長

- ・ボランティアにおける女性の割合は、高めである。サロンやボランティアの男性参加者少しでも増えると良いだろう。

○加藤委員

- ・alko は、かわいいデザインであり、良い取り組みだと思う。きっかけとしてもユニークである。若い人も馴染みやすい一方で認知度はまだまだである。現在行っている周知活動を教えていただきたい。

○事務局

- ・市の広報、チラシ配布に加え、各種イベントでブースを設けて周知、啓発活動を行っている。市民まつりの小牧山会場に alko のブースを設け、景品交換の様子を見えるようなアプローチと登録支援を行った。また、こども未来館など、親子の目に留まるような場所に景品交換の場を設けている。

・光ヶ丘の地域協議会のウォーキングイベントでは、高齢者向けにインストールの支援などを行った。

○加藤委員

- ・例えば、スマホ教室と一緒に普及の取組みをしてはいかかがか。
- ・民間のアプリには友達紹介などの仕組みもある。紹介することがポイントに変わるとなると、周知のスピードが若干速くなるかもしれない。

○柴田会長

- ・市の HP で見やすく広報しているのだろうか。

○事務局

- ・HP にバナーを出す、新着情報に掲載してできるだけ目に留まるようにしている。ただ、高齢者からの問い合わせは、HP よりも広報への掲載の方が多い。両方を充実していこうと思っている。

○山下市長

- ・本市では新型コロナのワクチン接種の予約を LINE で行ったことにより、公式 LINE への登録者数が6万を超えている。人口が15万人なのでかなりの比率である。市政情報の発信にも活用し、週1回 Web ニュースを配信している。
- ・高齢者のデジタルデバイドの解消を図るため、来年度以降、地域に出向いて支援しなくてはいけないと考えている。
- ・市民アンケートで「支え合いいきいきポイント制度」を知らない人が4割を超えていることは、課題と感じる。
- ・アプリやポイント制度の PR に LINE を使う、老人クラブで直接説明するなど、リアルとバーチャルを組み合わせた PR をしていきたい。

○柴田会長

- ・本日も欠席の伊藤大介委員から、意見は出ているだろうか。

○事務局による事前提出意見の紹介（伊藤大介委員）

- ・資料の P9 の高齢者アンケートの結果について。事業の参加者を増やすという点において、「参加したくない」という人の理由・背景がわかれば、アプローチのヒントになるのではないか。関心のない人はアンケートへの回答もしないことが多い。
- ・支え合いやボランティア活動に、いきなり参加することへ躊躇する人もいるのではないかと推察する。そこで「健康いきいきポイント」「支え合いいきいきポイント」という小牧市の強みを活かし、ポイントを入口に支え合い活動へステップアップしていくような流れを作ることができれば、介護予防効果はもちろん、参加者増加にも寄与するのではないか。

- ・一人で運動することは悪いことではないが、介護予防の面から誰かと一緒に運動する方がより介護予防効果が高いとされている。スポーツなどのグループで運動することが、介護予防に望ましいことも多くの文献で明らかにされている。ウォーキングアプリは今後、知り合い同士とつながれる機能、知り合いと一緒に歩くとポイントがもらえるなど、誰かと一緒に活動することを促す仕掛けを追加できると良いかもしれない。

○関委員

- ・資料 P9 の健康づくり活動などに参加したい人は多いが、世話役では急に意向が減ってしまうという結果は参考になる。
- ・世話役としての参加意向が低いというのは、市民活動センターの運営に携わる中でも感じる部分がある。世話役の負担になる点を知る必要があるのではないか。
- ・資料 P10 のさわやか福祉財団の文章について、印象に残ったのが「人は自らできる能力を発揮することでいきがいを持ちます」の一文。まさに若い人たちの人材育成の上で課題となっている。情報を届けても、それを受け取った人が我が事として捉えるかどうかで、情報のインプットの深さは変わってくる。若い人が関心を持ち、参加できる内容にすることで、自然と訴求力は高くなるのではないか。
- ・支え合いポイントの窓口にいると、元気な高齢者等が集まっており、やりがいを持っている。若い人も別の視点で、役割を与えることで主体となって参加できるような見え方、仕掛けを打ち出してはいかがだろうか。

○田中委員

- ・ポイント制について、他の市町村の様子では、仲間と一緒にやる・人の役に立つという喜びを感じている人が多い。
- ・伊藤大介委員の論文では、地域活動の運営、町内会、自治体活動などにボランティアポイントを充てていくと非常に効果があるというデータがあった。先ほど、関委員が言われたように、役に対してボランティアポイントを充てることで、負担感の軽減や承認されるようになっていくのではないか。alko の活用と同様に、誰かと一緒につながりながら自分の役割をしっかりと果たせるような活用方法も盛り込んでいけると良いと思った。地域活動の中で地域住民と話し合いながら、取組みを進めていけたら良い。

○柴田会長

- ・ポイント制では、稲城市を参考にする自治体が多いがなかなか難しいと聞いている。
- ・小牧市のこの制度は、ウォーキングで自分の健康だけではなく、地域の支え合いも対象にしているのが画期的だと思う。
- ・今日の話では、認知度を上げる、アクセスを良くすることが出た。世代によって異なるが、認知度の向上は本会議で議論できる部分かもしれない。
- ・健康をきっかけに、福祉や地域の支え合いに関心を持っていただく。それが循環になっていくと思う。また、それが介護予防につながることで介護保険制度の負荷が軽くなると良い。

認知度が低いことを悲観するか、伸びしろとして考えて改善していくのか、これから議論していきたい。

○山下市長

- ・健康への関心の高さは、事業を通じて感じている。健康ポイントと支え合いポイントでは、やはり健康の方が利用が多い。自身の健康だけで完結せず、一緒になって活動する、人への支え合い活動が自身の健康につながるところまで、少しずつ進めたい。
- ・生涯学習も同様に、自己完結せず、地域に役立てていくことを考えている。担い手の育成が課題であるが、話題にも出たように、いきなりボランティアなどはハードルが高い。入口のハードルを下げっていく方法を議論いただけるとありがたい。
- ・ボランティアポイントの範囲について、現状は、介護施設、サロン、日常の困りごと支援の3つである。それを町内会役員・老人クラブの世話人などまで含めるのか、また、健康ポイントも、スポーツへの参加などには結びついていない。どこまで対象にするかも悩んでいるため、この会議の中で議論いただけるとありがたい。
- ・世話役の負担感について。ご存じのとおり、PTA や区長の担い手がいない。役になりたくないから、と自治会への加入率が減っている。老人クラブでは、世話役や会長を引き受けてくれる人がいないため解散しており、この10年で3割ほど減ってきている。ただ、アンケートで「世話役をやっていい」という人が約3割いる点も重要だと思った。負担感やどうすればよいかをしっかりと模索しなければならない。

○柴田会長

- ・ウォーキングのような自助、サロンのような互助をどこまで広げるのか。公共につながるものかどうかという考え方もあるだろう。「自助・互助から公共へ」という見方が1つの視点かもしれない。

(2) 調査内容について

・事務局による資料説明（資料2）

○伊藤博美委員

- ・健康に関する施策一覧を見ると、ライフステージごとに様々な取組みをすとなっているが、対象年齢ごとに参加等の呼びかけができてきているのか。

○事務局

- ・フレイル予防では、関係各課の取組みや啓発資料を共有し、地域のサロンなどにおけるフレイルチェックの際に、対象となる方に配布するなどの取組みはしている。
- ・個々の取組みに対する個別通知や啓発は実施しているが、ライフステージに合わせた全体の周知啓発は実施できていないので、今後の課題である。

○山下市長

- ・私から3点、お願いしたい。参加したくない人の分析、世話役の具体的な負担を掘り下げるとともに、ポイント制度の対象範囲についても検討いただきたい。また、使いやすさのアイデア、参加者の感想などについて、広く聞いてみたい。
- ・歯科検診などの案内を郵送している。案内を送付する際に、他の情報も一緒に同封して案内するというのも考えられるので有効活用してほしい。

○柴田会長

- ・案内にHPへ飛べる2次元コードをつけることも考えられる。
- ・他に意見があれば、メール等で調査に関する要望をいただければと思う。
- ・本日の議題は以上である。事務局から連絡事項をお願いしたい。

5. 連絡事項

- ・会長のお話し通り、限られた時間での議論であったため、ご意見等があればメールなどで事務局まで寄せていただきたい。
- ・第2回の会議については1月16日（月）午前10:00から開催する。
- ・第3回と第4回については、スケジュールのとおり2月中、3月中で予定している。
- ・有識者ヒアリングについても改めて案内する。
- ・本日の会議録について、内容の確認にも協力をお願いしたい。

（了）